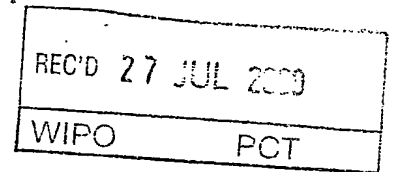


09.06.00

日本国特許庁
PATENT OFFICE
JAPANESE GOVERNMENT



別紙添付の書類に記載されている事項は下記の出願書類に記載されている事項と同一であることを証明する。

This is to certify that the annexed is a true copy of the following application as filed with this Office.

出願年月日

Date of Application:

2000年 1月25日

出願番号

Application Number:

特願2000-015548

出願人

Applicant(s):

鐘紡株式会社

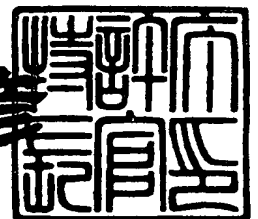
株式会社クロイスターケミカルズ

PRIORITY DOCUMENT
SUBMITTED OR TRANSMITTED IN
COMPLIANCE WITH
RULE 17.1(a) OR (b)

2000年 6月29日

特許庁長官
Commissioner,
Patent Office

近藤隆彦



出証番号 出証特2000-3054142

【書類名】 特許願

【整理番号】 P2000-0016

【あて先】 特許庁長官 殿

【国際特許分類】 A61K 7/00

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県小田原市寿町5丁目3番28号 鐘紡株式会社
化粧品研究所内

【氏名】 齋藤 雅人

【発明者】

【住所又は居所】 神奈川県足柄上郡開成町中之名155

【氏名】 手塚 敬三

【特許出願人】

【代表出願人】

【識別番号】 000000952

【氏名又は名称】 鐘紡株式会社

【代表者】 帆足 隆

【電話番号】 03-5446-3575

【特許出願人】

【識別番号】 595017931

【氏名又は名称】 株式会社クロイスターケミカルズ

【代表者】 花岡 康之

【先の出願に基づく優先権主張】

【出願番号】 平成11年特許願第251338号

【出願日】 平成11年 9月 6日

【手数料の表示】

【予納台帳番号】 010205

【納付金額】 21,000円

【提出物件の目録】

【物件名】 明細書 1

【物件名】 要約書 1
【プルーフの要否】 要

【書類名】 明細書

【発明の名称】 発熱化粧料

【特許請求の範囲】

【請求項 1】 (a) ゼオライトと、(b) ポリオキシアルキレン（アルキレンの炭素数が 2、3）グリコール付加物を含有し、実質的に非水系である発熱化粧料。

【請求項 2】 更に粘剤を含有する請求項 1 記載の発熱化粧料。

【請求項 3】 更にポリアクリル酸ナトリウム粉末を含有する請求項 1 又は 2 記載の発熱化粧料。

【請求項 4】 粘剤が、ヒドロキシプロピルセルロース、オクテニルコハク酸トウモロコシデンプンエステルアルミニウム塩、合成ケイ酸アルミニウム、合成ケイ酸ナトリウム、合成ケイ酸ナトリウムマグネシウム、カオリンから選ばれる 1 種以上である請求項 1～3 のいずれか 1 項記載の発熱化粧料。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】

本発明は、水分と接触したときに発熱する発熱化粧料に関するものである。

【0002】

【従来の技術】

化粧料に発熱作用を付与し、化粧料を塗布した際に快適感を与えるとともに、皮膚の清浄性や皮膚機能等を亢進させる化粧料として、過去に種々提案されている。例えば、アルキレングリコール等が水と接触し発熱するのを応用した化粧料（特開昭 57-75909 号公報）、ポリエチレングリコールと活性化ゼオライトが水と接触し発熱するのを応用した化粧料（特開平 6-100411 号公報）、また焼石膏が水と接触し発熱するのを応用したパック等（特開昭 57-114506 号公報、特開昭 60-94905 号公報、特開昭 62-30704 号公報、特開昭 63-54308 号公報）等が開示されている。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】

しかし、従来の方法による発熱化粧料は、塗布時には発熱作用が強いが経時的に弱くなったり、また塗布時にべたつき感があるなど、使用性や感触にも劣り、さらに焼石膏は強アルカリ性となり皮膚にとって好ましくない。

すなわち、本発明の目的は、洗い流し性や感触等に優れ、長時間の発熱性を有する化粧料を得ることにある。

【 0 0 0 4 】

【課題を解決するための手段】

本発明者らは、上記課題を解決すべく鋭意検討した結果、(a) ゼオライトと、(b) ポリオキシアルキレン（アルキレンの炭素数が2、3）グリコール付加物を含有し、実質的に非水系である発熱化粧料が、上記目的を達成できることを見出した。

すなわち、本発明は、(a) ゼオライトと、(b) ポリオキシアルキレン（アルキレンの炭素数が2、3）グリコール付加物を含有し、実質的に非水系である発熱化粧料にある。

【 0 0 0 5 】

【発明の実施の形態】

本発明で用いるゼオライトは水と混合されることによって水和熱を発生するものであって、合成ゼオライト粉末が好ましく、例えば、 $(1-x) \text{Na}_2\text{O} \cdot x \text{K}_2\text{O} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2 \text{SiO}_2$ ($x \geq 0.3$) の合成ゼオライト3A型、 $\text{Na}_2\text{O} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2 \text{SiO}_2$ の合成ゼオライト4A型、 $(1-x) \text{Na}_2\text{O} \cdot x \text{CaO} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2 \text{SiO}_2$ ($x \geq 0.7$) の合成ゼオライト5A型等であり、合成ゼオライトの粒度分布としては0.15mm以下が好ましく、これらの製品例としては東ソー株式会社より市販されているゼオラムA-3粉末、ゼオラムA-4粉末、ゼオラムA-5粉末等が挙げられ、その他ユニオン昭和株式会社等より市販されている。

ゼオライトの配合量としては、発熱化粧料の総量に対して、1.0～50.0質量%が好ましく、特に好ましくは10.0～40.0質量%である。

【 0 0 0 6 】

本発明では、ゼオライトともに、水と接して発熱するポリオキシアルキレン（

アルキレンの炭素数が 2、3) グリコール付加物を併用することによって、ゼオライトの発熱性を制御して長時間の発熱を維持でき、また単なるポリオキシエチレングリコールやグリセリン等の水和熱を発生するものに比べ、発熱化粧料を肌に塗布した後の水での洗い流し性が優れる。ポリオキシアルキレン（アルキレンの炭素数が 2、3) グリコール付加物としては、例えば、ポリオキシエチレングリセリルエーテル、ポリオキシプロピレングリセリルエーテル、ポリオキシエチレンポリオキシプロピレングリセリルエーテル、ポリオキシエチレンラウリルエーテル等のポリオキシエチレンアルキル（アルキルの炭素数が 12～14）エーテル、モノラウリン酸ポリエチレングリコール、ラウリン酸ポリプロピレングリコール、ジラウリン酸ポリエチレングリコール等のポリオキシアルキレン脂肪酸エステル、ポリオキシエチレンメチルグルコシド、ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサン等が挙げられる。付加物中のエチレンオキサイド、プロピレンオキサイドの一種以上の総付加数としては 10～100 が好ましい。これらは単独または 2 種以上を組み合わせ用いる。これらの中でも、ポリエチレングリコール（分子量としては 100～800 が好ましい）、1,3-ブチレングリコール、グリセリン、ポリオキシエチレングリセリルエーテル、ポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンが本発明の目的を達成する上で好ましく、さらにこれらの 2 種以上を併用することが、快適な温度で発熱を維持するために特に好ましい。本発明の発熱化粧料は粘性を有するので、脱泡効果を得るためにポリオキシアルキレン変性オルガノポリシロキサンを併用することが好ましい。

ポリオキシアルキレン（アルキレンの炭素数が 2、3) グリコール付加物の総配合量としては、発熱化粧料の総量に対して、5.0～70.0 質量% が好ましく、特に好ましくは 10.0～60.0 質量% である。

【0007】

本発明では、発熱化粧料に粘性を付与し、使い勝手と延展性を付与するために、粘剤を併用することが好ましい。粘剤としては、例えば、カルボキシメチルセルロース、ヒドロキシメチルセルロース、ヒドロキシエチルセルロース、ヒドロキシプロピルセルロース、ポリビニルピロリドン、ポリビニルアルコール、カラギーナン、キサンタンガム、オクテニルコハク酸トウモロコシデンプンエステル

アルミニウム塩等のデンプン誘導体等の有機系高分子化合物、カオリン、タルク、酸化チタン、ケイ酸アルミニウムマグネシウム、合成ケイ酸ナトリウム、合成ケイ酸アルミニウム、合成ケイ酸ナトリウムマグネシウム等の無機系化合物が挙げられ、これらは単独または2種以上を組み合わせ用いる。これらの中でも、ヒドロキシプロピルセルロース、オクテニルコハク酸トウモロコシデンプンエステルアルミニウム塩、合成ケイ酸アルミニウム、合成ケイ酸ナトリウム、合成ケイ酸ナトリウムマグネシウム、カオリンが他の配合成分との相性がよく系が均一で、適度な粘度が得られるので好ましい。本発明では、発熱化粧料の粘度を1万～15万c p s、特に8万～15万c p sにすることによって、発熱作用を長時間維持でき、肌に塗布し易く、感触もよく、かつたれ落ちも少なくなるので好ましい。特に、上記有機系高分子化合物と上記無機系化合物とを併用することが上記の範囲の粘度が得られ、また発熱しても系が均一であるので好ましい。なお、上記の粘度はB型回転粘度計を用い25℃にて測定した値である。粘剤の総配合量としては、0.5～60.0質量%が好ましく、特に好ましくは3.0～40.0質量%である。

【0008】

本発明では、上記成分以外に、さらにポリアクリル酸ナトリウムを粉末状で含有させることによって、ポリオキシアルキレン（アルキレンの炭素数が2、3）グリコール付加物、粘剤のべたつき感を改善でき、またポリアクリル酸ナトリウム粉末のスクラブ効果による温熱下でのマッサージ作用によって皮膚機能が亢進し、かつポリアクリル酸ナトリウム粉末によって化粧料と水分との皮膚上での混合が均一となり、適度な発熱効果も得られる。特にポリアクリル酸ナトリウム粉末の色調を周囲の発熱化粧料の色調と異なる色調に着色していると、該粉末が使用時に崩壊していくのを目で確認でき、経時の目安となり好適である。ポリアクリル酸ナトリウム粉末の粒子径としては、1～80 μ mが好ましく、その配合量としては0.05～2.0質量%が好ましい。

【0009】

また本発明では、トウガラシ末、トウガラシチンキ、トウガラシエキス、シヨウキョウチンキ、シヨウキョウエキス、シヨウガオール、カプサイシン及びその

誘導体、イソバニリン誘導体、トコフェロール類、ニコチン酸類、ワニリルー n - アルキルエーテル（アルキル基の炭素数が 3 ～ 6、特開昭 6 2 - 2 9 2 7 1 1 号公報等に記載された物質）等の温感助剤を 0. 0 0 1 ～ 1. 0 質量%で併用することが好ましい。

本発明では、使用時にのみ発熱作用を得るために、実質的に化粧料中に水を配合しない非水系にする必要がある。

本発明では、その他の成分として、油剤、防腐剤、顔料、色素、キレート剤、清涼剤、界面活性剤、消炎剤、収斂剤、細胞賦活剤、痩身剤、美白剤、皮脂分泌抑制剤、除毛成分、抗酸化剤、香料等を使用目的に応じて適宜配合される。特に、動植物エキス、酵母エキス、ビタミン類等の皮膚機能亢進剤を配合することは、温熱効果によって配合成分の皮膚機能亢進作用を増強できるので好ましい。

【 0 0 1 0 】

本発明の発熱化粧料としては、パック剤、マッサージ料、シェービング剤、脱毛剤、洗顔料、ヘアトリートメント、洗髪料等が挙げられ、クリーム状、ジェル状、粉末状、打錠状または支持体に塗布されたシート状の剤型等にして用いられる。特に洗い流しのマッサージパック料に好適である。使用方法としては、例えば、顔等を水や化粧水で濡らした後に本発明の発熱化粧料を塗布し、指で皮膚をマッサージしながら水と発熱化粧料を混合することによって発熱させ、その後水で洗い流したり、または肌に塗布した発熱化粧料が乾燥後肌から剥離し、その後洗顔したりする。

【 0 0 1 1 】

【実施例】

以下、実施例に基づき、本発明を具体的に説明する。

なお、発熱化粧料の評価方法としては、10 名のパネラーが発熱化粧料を使用し、各評価項目で官能試験を行い、下記評価基準で評価した。なお、発熱の持続効果としては 5 分間維持できたかで判断した。

〔官能評価基準〕

- ： 良いと答えた人が 7 ～ 1 0 名
- △ ： 良いと答えた人が 3 ～ 6 名

× : 良いと答えた人が0～2名

【0 0 1 2】

実施例1～2、比較例1～2

下記表1の処方で洗い流しの発熱パック剤を製造し、得られたパック料について上記官能評価を行い、表1の結果を得た。なお、配合量は質量%である（以下、同様である。）。

〔表1〕

配合成分	実施例1	実施例2	比較例1	比較例2
ポリオキシエチレングリセ リルエーテル（注1）	50.0	50.0	50.0	—
ポリオキシエチレンメチル グルコシド（注2）	1.0	1.0	1.0	—
グリセリン	—	—	—	51.0
ゼオライト（注3）	38.0	38.0	—	38.0
ヒドロキシプロピルセルロース	0.7	0.7	0.7	0.7
カオリン	残量	残量	残量	残量
合成ケイ酸ナトリウム マグネシウム	1.0	1.0	1.0	1.0
酸化チタン	0.4	0.4	0.4	0.4
タルク	1.0	1.0	1.0	1.0
ポリアクリル酸ナトリウム （青色着色粉末、平均粒子径10 μ m）	—	1.0	—	—
シリコーン油（注4）	0.2	0.2	0.2	0.2
ハマメリスエキス（1, 3 —BG抽出液）	1.0	1.0	1.0	1.0
サルビアエキス（1, 3—BG 抽出液）	1.0	1.0	1.0	1.0
香料	0.1	0.1	0.1	0.1

塗布時のべたつき感	○	○	△	△
温熱感と持続性	○	○	×	△
洗い流し性	○	○	○	×

【0013】

(注1) ユニオックスG-1200 (総E. O. = 26、日本油脂社製)

(注2) グルカムE-20 (総E. O. = 20、アマコール社製)

(注3) ゼオラムA-4 (東ソー社製)、 $\text{Na}_2\text{O} \cdot \text{Al}_2\text{O}_3 \cdot 2\text{SiO}_2$ (

注4) ポリオキシエチレン変性オルガノポリシロキサン (信越化学工業社製、シリコーンKF-351A、エチレンオキサイド付加数=11)

【0014】

表1の下欄の結果から、本発明の実施例1~2は発熱作用が持続し、べたつき感も少なく、特に実施例2はべたつき感もなかった。また、実施例1~2は洗い流し性にも優れ、使用後の肌への異常も無く、肌のパック効果も得られた。

【0015】

実施例3

下記表2の処方で洗い流しの発熱パック剤を製造し、得られたパック料について上記官能評価を行い、表2の結果を得た。

[表2]

配合成分

ポリオキシエチレングリセリルエーテル (注5)	50.0
ゼオライト (注6)	20.0
無水珪酸 (注7)	5.0
ヒドロキシプロピルセルロース	0.6
カオリン	残量
オクテニルコハク酸トウモロコシデンブンエステルA1塩	2.0
合成ケイ酸ナトリウム	1.0
ポリアクリル酸ナトリウム (平均粒子径10 μm)	1.0

シリコーン油（注4）	0. 2
ハマメリスエキス（1, 3-BG抽出液）	1. 0
セージエキス（1, 3-BG抽出液）	1. 0
ワニリルー n - ブチルエーテル	0. 0 5
香料	0. 1

塗布時のべたつき感	○
温熱感と持続性	○
洗い流し性	○

【0 0 1 6】

（注4）ポリオキシエチレン変性オルガノポリシロキサン（信越化学工業社製、シリコーンKF-351A、エチレンオキサイド付加数=11）

（注5）ユニオックスG-1200（総E. O. =26、日本油脂社製）

（注6）ゼオラムA-3（東ソー社製）、 $(1-x)Na_2O \cdot xK_2O \cdot Al_2O_3 \cdot 2SiO_2$ ($x \geq 0.3$)

（注7）サイロピュア35（焼成品）（富士シリシア化学社製）

【0 0 1 7】

【発明の効果】

上記の如く、本発明は、発熱作用が持続し、感触、洗い流し性等にも優れた発熱化粧料を提供することは明らかである。

【書類名】 要約書

【要約】

【課題】 発熱作用が持続し、感触、洗い流し性等にも優れた発熱化粧料を提供する。

【解決手段】 (a) ゼオライトと、(b) ポリオキシアルキレン (アルキレンの炭素数が 2、3) グリコール付加物を含有し、実質的に非水系である発熱化粧料

。

【選択図】 なし

認定・付加情報

特許出願の番号	特願2000-015548
受付番号	50000070518
書類名	特許願
担当官	仲村 百合子 1730
作成日	平成12年 3月14日

<認定情報・付加情報>

【提出日】	平成12年 1月25日
【特許出願人】	申請人
【識別番号】	000000952
【住所又は居所】	東京都墨田区墨田五丁目17番4号
【氏名又は名称】	鐘紡株式会社
【特許出願人】	
【識別番号】	595017931
【住所又は居所】	東京都台東区浅草橋4丁目2番2号
【氏名又は名称】	株式会社クロイスターケミカルズ

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [000000952]

1. 変更年月日	1990年 8月24日
[変更理由]	新規登録
住 所	東京都墨田区墨田5丁目17番4号
氏 名	鐘紡株式会社

出 願 人 履 歴 情 報

識別番号 [595017931]

1. 変更年月日 1994年12月22日

[変更理由] 新規登録

住 所 東京都台東区浅草橋4丁目2番2号
氏 名 株式会社クロイスターケミカルズ

THIS PAGE BLANK (USPTO)